

会長就任ご挨拶

2022年5月26日



(一社) 日本伸銅協会 会長 百野 修
(JX 金属株式会社 常務執行役員 機能材料事業部長)

この度は会員各社のご推挙により、本年度日本伸銅協会の会長に就任とすることとなりました JX 金属の百野でございます。

新型コロナウイルスのパンデミックや地政学的リスクが高まっている中、協会並びに会員の皆様の発展に尽力致す所存でありますので、よろしく願いいたします。

2021 年度を振り返りますと、コロナ禍不況を脱し、ポストコロナ、ウィズコロナへの変革がみられはじめております。その一方で、カーボンニュートラルをはじめとした環境課題への取り組みが、強く要請され始めた年でありました。

世界経済につきましては、脱コロナの早期化がなされた中国の復調、底堅く推移する米国経済に牽引されてきておりましたが、昨年年初からの半導体不足、9 月より不動産過剰投資問題による中国の減速感や、本年 2 月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻、さらに中国におけるロックダウンの等が引き起こすなど、世界規模の経済不安も感じられております。そのような環境の下、私ども伸銅業につきましては、2021 年度は、新規住宅関連やエアコンなどの一部品種では減速傾向となりましたが、概ね前年度下期の回復傾向を維持いたしました。

この結果、伸銅品生産量は当初見通しをやや下回りましたが、77万3千トンと、コロナ前の2019年度の73万7千トンにやや上積みしたレベルとなりました。

そのような中、日本伸銅協会は、次の6つの点について取り組んでまいります。

- ① ゼロエミッション、カーボンニュートラルを始めとしたSDGsへの取り組み
- ② 新型コロナウイルスが引き起こした事業環境の変化に対する対応
- ③ 会員企業の事業活動にとって、大前提となる、安全、コンプライアンス、品質管理の徹底
- ④ 共同技術開発や共同市場調査、SDGsやDXなどの重要分野についての会員対象セミナーなどのロードマップ事業
- ⑤ 会員への情報提供や支援の充実。コロナ禍により延期となっている庚話会をはじめとした行事の実開催の再開。
- ⑥ 会員企業の海外事業展開についての必要に応じた適切な支援やIWCCなどの国際的機関との協働、銅センターとの連携など国際関係。

その他、エネルギー・電気料金や原料対策などにも引き続き取り組んでまいります。

また、日本伸銅協会として積極的に情報収集・提供を行っていくとともに、必要な場合には、政府への申し入れと行うことも検討していきたいと思っております。

こうしてみますと、我々伸銅業には足元の問題とともに、中期的な課題も多く、それらに一つ一つ取り組んでゆかねばなりません。

引き続き厳しい環境下ではありますが、会員相互の信頼関係を大切にしつつ、伸銅業界の社会的役割を果たしてまいりたいと思っております。